大阪

花園ラグビー場での広報活動と試合球投下
UH−1Jが迫力の演出、観客から大きな反響

大阪地方協力本部東大阪地域事務所は1月11日、花園ラグビー場で行われたラグビーリーグワンD2第3節「花園近鉄ライナーズvsレッドハリケーンズ大阪」の試合に参加しました。

花園ラグビー場は花園近鉄ライナーズのホームスタジアムであり、ラグビーの「聖地」として多くのファンに親しまれています。

今回の試合は「大阪ダービー」として注目を集めるため、会場外には自衛隊の募集ブースを設置し、来場者に向けた広報活動を実施しました。

また、オープニングセレモニーでは、陸上自衛隊中部方面ヘリコプター隊（八尾駐屯地）の協力により、UH−1Jヘリコプターから試合球を投下。昨シーズンのホストゲーム開幕戦に続く2回目の実施となり、SNSやメディアでも大きな反響を呼びました。

カウントダウンで試合球を投下

今年度の実施に向けては、中部方面ヘリコプター隊と綿密な調整を行い、現地での予行演習を重ねるなど、万全の準備を整えました。安全面に配慮しながら、試合開始に向けた盛り上がりを最大限に引き出すための調整を実施。当日は定刻通りにヘリコプターがスタジアム上空に到達し、観客約3700人のカウントダウンに合わせて試合球が投下されました。その迫力ある飛行と正確なボール投下に、観客からは大きな歓声が上がりました。

試合後、観客からは「ヘリコプターの迫力に感動した」「試合がさらに盛り上がった」といった声が寄せられました。ボールを待ち構えていた選手からも「昨年に続き、今年もキャッチできなかった。次回は必ずキャッチしたい」との前向きなコメントがあり、会場は大いに盛り上がりました。

さらに、会場外の自衛隊募集ブースでは、多くの観客が興奮冷めやらぬ様子で自衛隊に関する質問をし、広報活動に対する関心が高まりました。

静岡

予備自衛官補辞令書交付式を実施
意識を高め、教育訓練への理解を深める研修

静岡地方協力本部は令和6年12月20日、新たに採用された予備自衛官補の意識を高め、自衛隊の役割や教育訓練への理解を深めてもらうことを目的に、本部庁舎で辞令書交付式と制度説明を行いました。

その後、陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）に移動し、昼食体験や資料館見学を実施しました。

本部庁舎での辞令書交付式では、田代本部長が一人一人に辞令書を手渡しました。今回参加をした4人は、予備自衛官補としての決意を新たにしました。

資料館を見学する予備自衛官補

本部長は「お仕事をしながら予備自衛官補としての役割を担う決断に感謝します。予備自衛官の歴史は長く、特に東日本大震災以降、その重要性はますます高まっています。教育を担当する部隊はしっかりとサポートしますので、安心して訓練を受け、知識と技能を身につけてください」と激励しました。

その後、予備自衛官班長が制度の説明を行い、参加者は今後の教育訓練の内容について熱心に耳を傾けていました。

午後は、陸上自衛隊板妻駐屯地へ移動し、隊員食堂で昼食を体験しました。参加者からは「栄養バランスがよく、ボリュームもあっておいしかった」との感想が聞かれ、好評でした。続いて、駐屯地の資料館を見学し、広報担当者から部隊の歴史や駐屯地の役割について説明を受けました。

参加者は展示を興味深く見学し「実際に装備や資料を間近で見られて、自衛隊の活動がより身近に感じられた」といった感想が聞かれました。

今回の研修を通じて、参加者は予備自衛官補としての意識を高めるとともに、教育訓練への理解を深めることができました。

研修を終えた参加者の一人は「今日1日で予備自衛官補としての意識が高まりました。教育訓練をしっかり修了し、いざという時に役立てるよう頑張りたい」と意欲を語っていました。

鳥取

鳥取でレスリング体験教室を開催
パリ五輪メダリストが小中高生を指導

鳥取地方協力本部は1月13日、鳥取県レスリング協会と共催し、倉吉総合産業高校で小中高生を対象としたレスリング体験教室を開催しました。２０３３年に鳥取県で開催予定の国民スポーツ大会を見据え、子供たちにレスリングへの関心を持ってもらうことを目的としています。

質問に答えるオリンピアン

今回の体験教室は、鳥取県出身で国民スポーツ大会の鳥取県代表でもある岡太和一1等陸尉（第32普通科連隊・大宮駐屯地）の調整により実現。講師には、パリ五輪レスリング女子フリースタイル76kg級金メダリストの鏡優翔選手と、男子フリースタイル74kg級銀メダリストで自衛隊体育学校所属の高谷大地1等陸尉を迎え、地元の小中高生約80人が参加しました。

両選手は、時にユーモアを交えながら、構えやタックルなどレスリングの基礎を指導。メダリストから直接学べる機会とあって、参加者は真剣な表情で練習に取り組んでいました。指導の中では、両選手が互いにタックルの実演を披露し、世界トップレベルの俊敏な動きに会場からどよめきが起こっていました。

指導後の質問コーナーでは、参加者から「世界で戦うためにはどうすればよいか」との質問が寄せられました。これに対し、鏡選手は「人より一つでも多く何かをやり、それを継続すること」、高谷1尉は「目先の楽しさではなく、辛いことを乗り越えた先の楽しさを目指すこと」と答え、努力の大切さを伝えました。

参加者からは「楽しかったので、また挑戦したい」「自衛官でオリンピックにも出場し、すごいと思った」といった感想が寄せられ、体験教室は大盛況のうちに幕を閉じました。

神奈川

入隊予定者説明会を開催
不安解消と入隊準備のための有意義な機会

神奈川地方協力本部平塚地域事務所は1月25日、令和7年度入隊予定者7人とその保護者12人を対象に、入隊に関する不安や疑問を解消するための説明会を開催しました。

不安などを少しでも解消

説明会では、広報官が自衛隊の役割や職種、入隊後の生活、訓練内容、待遇、福利厚生、安全対策、入隊準備などについて詳しく説明しました。

その後の座談会では、現役隊員が自身の体験談を交えながら、自衛官の生活やキャリア形成について具体的に紹介しました。

参加した入隊予定者からは「多くの不安があったが、今回解消できた。入隊まで1カ月以上あるので、心と体を鍛え、特に体力面を強化して自信を持って入隊できるよう準備したい」との声が聞かれました。また、保護者からも「自衛隊の活動や支援体制について理解が深まった」との意見が寄せられ、入隊に向けた準備を進める上で有意義な機会となりました。

大阪

母校で自衛隊音楽隊の魅力を伝える
卒業生リクルーターが学生に職業の魅力を紹介

大阪地方協力本部八尾分駐所は1月6日、大阪教育大学へ同校の卒業生で現在、陸上自衛隊音楽隊で勤務するリクルーター2人による母校訪問を行いました。

大阪府柏原市にキャンパスのある大阪教育大学は、大阪府はもとより関西圏において人気のある演奏技術の高い国立大学であり、自衛隊音楽隊要員を輩出するなど、自衛官募集にも馴染みのある大学です。

今回、母校を訪問したリクルーターは、第15音楽隊（那覇駐屯地）所属の横山綾乃1等陸士と第1音楽隊（練馬駐屯地）所属の高橋理織2等陸士であり、同校音楽表現コースの学生9人に対して自衛隊の制度や概要説明と懇談を行いました。

当日は、演奏服装で登場した先輩2人に対して学生から拍手が送られ、横山1士と高橋2士による学生目線での分かりやすい説明と、訓練内容や演奏実績、生活環境に関する「生の声」には活発な質問が交わされ、学生のみならず、教員や八尾所員にとっても有意義な時間となりました。

参加した学生からは「演奏服装姿がとてもかっこよくて憧れます」「音楽を職業として続けられることが素晴らしい」「自衛隊という舞台で活躍している先輩と話せてとても良かった」といった声が聞かれ、同校教員からは卒業生の成長を喜ぶ声がありました。

また、訪問に合わせて学校側はリクルーターに対し、「高校生向け大学案内」の作成に向けた取材を行い、卒業生へのインタビューを通じて自衛隊の職業としての魅力や卒業後の活躍状況を紹介する予定です。

これにより、幅広い層へのPR活動が進められることが期待されます。

静岡

初の「女性限定募集案内所」を開催
不安を解消し自衛隊への理解を深める

静岡地方協力本部は令和6年12月22日、静岡県コンベンションアーツセンター（静岡市）で「１ｄａｙ女性限定募集案内所」を開催しました。女性の入隊・入校予定者や受験希望者を対象に、不安を解消し、自衛隊の役割や制度への理解を深めることを目的としました。保護者を含めた20人が参加し、静岡地本や航空自衛隊静浜基地（焼津市）の女性自衛官、防衛大学校家族会の会員が対応しました。

ランチ会で談笑する参加者

女性限定の説明会は、静岡地本としては初めての試みです。

説明会では、入隊までの流れや自衛官の勤務条件、福利厚生などの最新情報を紹介し、参加者は真剣な表情でメモを取っていました。その後、リラックスした雰囲気で質問しやすい環境をつくるため、ランチ会やアフタヌーンティーを開催。参加者と女性自衛官がテーブルを囲み「おすすめの職種は？」「教育期間中に帰省はできる？」といった質問が寄せられ、和やかな雰囲気で会話が弾みました。

さらに、恋人との出会いや結婚後の生活など、プライベートな話題でも話が弾みました。

また、会場の一角には制服試着と採寸のコーナーを設け、肩幅や首回りなどを計測し、一番近いサイズの制服を試着。参加者はそれぞれ陸・海・空自衛官の制服を身にまとい、入隊に向けた気持ちを高めていました。

南菜さん（富山北部高校２年生）が冒頭で本部長に紹介されました。彼女は家族と一緒に演奏会を楽しんだそうです。また、来場者からは「歌唱曲が素晴らしかった」「ポスターのデザインが素敵」「学生との合同演奏が盛り上がった」「音楽隊の演奏が素晴らしかった」といった声が寄せられ、大変好評を博しました。

栃木

自衛隊が伝える「防災の知識と技能」
生徒たちが命を守る行動を学ぶ機会に

栃木地方協力本部大田原地域事務所は1月24日、町立那須中学校で行われた防災教育を支援しました。

装備品を体験する生徒たち

今回の防災教育は、「いざというときに命を守る行動を」をテーマに、座学と体験の2部構成で実施されました。

座学では、生徒たちに自分たちが住む地域の特徴を理解してもらい、発生しやすい災害やその備え、適切な対応方法をスライドを使ってわかりやすく説明しました。体験では、身近な道具を使った止血法や骨折時の応急処置を学んだり、災害現場で使われる車両や装備品に触れる機会を提供しました。

教育が始まると、自衛隊が過去に対応した災害派遣の様子や、水害に見舞われた地域の写真がスクリーンに映し出され、生徒たちはその様子を真剣に見つめていました。

また、クイズを交えながら学びを深めることで、生徒たちは自然に考え、積極的に発言することができました。

体験では、生徒たちがグループを組んで、出血や骨折時の応急処置に挑戦したり、災害救助に使われる装備品を実際に触れてみたりしました。応急処置を学んだ生徒の一人は「包帯やギプスがなくても、これなら自分たちでもできるかもしれません」と感想を述べていました。

装備品の体験では、自衛隊の車両や災害対応機材を間近で見て「これはどんな場面で使うのですか？」と興味津々で質問していました。ピストン式破壊工具を使った生徒は「こんなに簡単にコンクリートが割れるなんて驚きました。こうした装備が人命救助に使われていることを知れてうれしいです」と満足そうに話していました。

広報官は「この防災教育を通じて、生徒たちが防災意識を高め、いざというときに自分自身や仲間を守るための知識と技能を身につけてくれるとうれしいです」と話していました。

大阪

入隊前トレーニング講習会を実施
参加者の体力向上と入隊への自信を支援

大阪地方協力本部は令和6年12月21日、陸上自衛隊千僧駐屯地において「入隊前トレーニング講習会」を実施しました。

体育学校講師による実技指導

この講習会は、採用試験合格者から「体力に自信がない」という声が多く寄せられたことを受け、入隊までの不安を払しょくし、入隊意欲を向上させることを目的に開催されました。

特に体力面に不安を持つ合格者に対して、適切なトレーニング方法を指導するため、体育学校から講師の派遣を依頼しました。参加者は、試験合格者28人など計34人が参加しました。

当日は、体育学校講師による体幹トレーニング、腕立て伏せ、腹筋の効果的な練習方法、自主トレーニングにおいて特に意識すべき事項などについて、論理的かつ分かりやすい講習と実技指導が行われました。

参加者全員が熱心に取り組み、講師による個別指導では時折笑顔も見せるなど、和やかな雰囲気で進行しました。参加者からは「腹圧を保つということを今まで意識したことがなく、とても勉強になりました」「無理なくトレーニングを続ける方法を教えてもらい、入隊までに体力を付けられそうな自信になりました」「今回のような合格者同士で参加できる体験型イベントはうれしいです」といった肯定的な声が多く聞かれました。

講習会の後は、千僧駐屯地隊員食堂での体験喫食に舌鼓を打ち、営内居室のモデルルームの見学では清潔感や備品の充実ぶりに歓声が上がっていました。北部中学校の生徒の中には、練習中にうまく演奏できず悩んでいた子もいましたが、リハーサルで音楽隊員からアドバイスを受け、本番では自信を持って演奏していました。演奏後には晴れやかな表情で「大きなステージで演奏できたことが自信になりました」と喜びの声を寄せてくれました。

さらに、演奏会のポスターデザインを担当した高森さんでいました。さらに、屋外では軽装甲機動車や高機動車などの陸上自衛隊車両を見学し、希望者は試乗を体験しました。生徒たちは自衛隊の装備や活動について興味を持ち、防災だけでなく自衛隊の役割についても理解を深めていました。

静岡

伊豆綜合高校での実践的防災訓練
自衛隊の訓練に合わせ、生徒が実践的な学びを体験

静岡地方協力本部三島募集案内所は令和6年12月17日、県立伊豆総合高等学校土肥分校（伊豆市）で実施された陸上自衛隊の部隊展開訓練に協力し、防災教育を行いました。

心肺蘇生法を実習

この防災教育は、南海トラフ地震などの大規模災害発生時に県立高校を活動拠点として活用することを想定し、部隊展開訓練と併せて実施されたもので、生徒46人が参加しました。

三島募集案内所は、「危機管理の視点から災害・危機に備える」をテーマに講話を行い、土肥地区の地理的特性を踏まえて防災マップを活用しながら、地域の危険箇所や日頃の備えの重要性について説明しました。生徒たちは真剣に耳を傾け、自分たちの住む地域のリスクについて理解を深めていました。

続いて陸上自衛隊第34普通科連隊（御殿場市）の支援を得て、ＡＥＤを使用した心肺蘇生法や担架での搬送法、背のう（リュック）の運搬体験を行いました。

特に、学校に備えられている担架を使った訓練では、生徒たちは声を掛け合いながら協力し、熱心に取り組んでいました。参加者の一人は「女性自衛官の経験談を聞くことができ、男性の広報官には相談しづらいことも話せて、不安がなくなりました」と笑顔を見せていました。

山形

置賜地域入隊予定者説明会を開催
不安を解消し、入隊への気持ちを後押し

山形地方協力本部米沢地域事務所は1月18日、米沢地方合同庁舎で置賜地域入隊予定者説明会を行いました。

リクルーター（中央左）との懇談

この説明会は、春から入隊する方やそのご家族に向けて、入隊後の生活や訓練の流れを紹介し、不安を少しでも和らげることを目的としています。

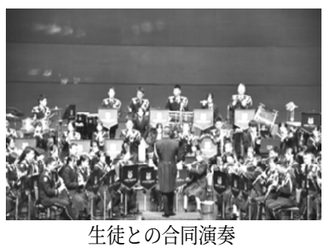
当日は、入隊予定者18人とご家族15人が参加。島津所長が、着隊までの流れや生活・勤務環境、昨年末に発表された自衛官の処遇改善や福利厚生について説明しました。その後、陸上自衛隊第20普通科連隊の廣野陸士長・長谷部陸士長、第6後方支援連隊の小関1等陸士が加わり、懇談の時間が設けられました。

参加者からは「年齢の近い隊員の方から、教育隊での様子や部隊での経験を直接聞けて良かった」「身近な部隊の方に相談できて安心した」といった声が聞かれました。また、女性の入隊予定者には女性自衛官が対応し、女性ならではの視点からアドバイスを行いました。参加者の一人は「女性自衛官の経験談を聞くことができ、男性の広報官には相談しづらいことも話せて、不安がなくなりました」と笑顔を見せていました。

富山

音楽の力で復興を願う演奏会
陸自中部方面音楽隊と地元吹奏楽部が共演

富山地方協力本部は昨年12月14日、富山市の芸術文化ホールで「ミュージックフェスタ２０２４ｉｎＴＯＹＡＭＡ」という音楽演奏会を開催しました。この演奏会は毎年富山地本が主催しており、陸上自衛隊中部方面音楽隊が富山県で公演するのは5年ぶりとなりました。


生徒との合同演奏

今年の演奏会は、能登半島地震からの復興を願い、氷見市内の氷見高校と市立北部中学校の吹奏楽部と一緒に合同演奏も行われました。演奏は2部構成で、第1部では「こうもり」序曲から始まり、行進曲「グリッドアイアン・クラブ」などの楽曲が演奏されました。第2部では、クリスマスの雰囲気を盛り上げるため、隊員たちがサンタクロースの帽子やトナカイの耳を付けて登場しました。さらに、ソプラノ歌手の濱野1等陸士の透き通るような歌声が観客を魅了しました。

生徒たちとの合同演奏では、アンコールを含め3曲を披露し、2部の終盤では生徒たちがステージに上がり、音楽隊の指揮のもとで「情熱大陸」などを演奏しました。氷見高校吹奏楽部部長の松井さんは「大人数で演奏する機会が少ないので、とても楽しみにしていました」とうれしそうに話しました。北部中学校の生徒の中には、練習中にうまく演奏できず悩んでいた子もいましたが、リハーサルで音楽隊員からアドバイスを受け、本番では自信を持って演奏していました。演奏後には晴れやかな表情で「大きなステージで演奏できたことが自信になりました」と喜びの声を寄せてくれました。

さらに、演奏会のポスターデザインを担当した高森

ひとりで悩まずご相談下さい！

自衛隊家族会は
★決して会員をひとりにはしません！
★いつもそばにおります！
★解決に向けてみんなで汗をかきます！

まずは、近くの家族会会員へ。
そして、お気軽に「問い合わせ窓口」へ。

1　「問い合わせ窓口」への問い合わせ先・要領

自衛隊家族会事務局（担当）　高橋　隆志(たかはし　たかし)
◇電　話：03−5227−2468　（平日 09:00〜16:00）
◇メール：jkazokukai@jkazokukai.or.jp　（常時、ただし返信は平日）

「総括相談員」　鍛治　雅和(かじ　まさかず)
◇番　号：080−4630−8987　（平日 09:00〜16:00）

○ 問い合わせ者は、まず「氏名（匿名可）」「所属家族会（部隊等）」など述べた後に、必要な「問い合わせ」を実施して下さい。不在時には「相談員」から電話しますので、事前に「非通知設定」の解除をお願いします。
○ ご不明な点は、高橋までご連絡下さい。

2　問い合わせ　「相談員」

役　職・氏　名	担　当　内　容
家族会運営委員(陸自OB) 手塚　信一(てづか　しんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ （主に陸上自衛隊）
家族会理事(海自OB) 鍛治　雅和	◇家族(隊員)に関する問い合わせ （主に海上自衛隊）
家族会理事(空自OB) 荒木　淳一(あらき　じゅんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ （主に航空自衛隊）
家族会副会長(陸自OB) 宮下　寿広(みやした　としひろ)	◇家族会全般に関する問い合わせ
家族会事務局員　高橋　隆志	◇家族会の管理に関する問い合わせ

相談無料！　個人情報・秘密厳守！　問題解決実績多数！